



photo / 二葉南元保育園でのお芋掘り



二葉とこども

vol.14



発行元：社会福祉法人 二葉保育園
発行元：平成 24 年 9 月 1 日

明日へのチャレンジをつづけて

私たちの挑戦

今年度 4 月 1 日から社会福祉法人二葉保育園の法人本部にて勤務をすることになりました。私の主な業務は法人全体の運営管理です。また、傘下には 5 事業所がありますので、それぞれの事業内容を統括し、連携を深めた事業として社会的な使命を果たしていくようにすることです。

私はこれまで二葉学園で子どもたちと生活する中で、「挑戦」という言葉が好きで、子どもたちにこの言葉の実践について伝えてきたつもりです。子どもが今まで体験したことのないさまざまな経験をすることで、ひと回りもふた回りも成長する子どもたちの姿を見て、私たち大人も「挑戦」する姿を見せるべきだと思っています。

社会福祉法人二葉保育園は今、新しい時代へ向けて「挑戦」しなければならない状況になっています。

3 施設の改築、新しい保育制度への転換、深刻化する社会的養護への期待等向き合わなければならない課題は多くあります。これから二葉で生活する園児がすくすく育つ環境を整えていくための「挑戦」が始まっています。

いよいよ始まった 建物改築

これまでに有形無形の多くの方々のご協力により「二葉学園」の改築がいよいよはじまりました。今年 7 月に入口道路整備、8 月から工事会社選定、9 月仮園舎への引っ越し、10 月から旧園舎解体工事、12 月から改築工事、来年の秋から冬にかけて竣工予定で現在改築作業を進めています。

二葉南元保育園についても、仮園舎の関係で、予定より少し早めた改築計画を進めています。二葉むさしが丘学園も東京都へ正式に改築申請書を提出したところ です。

改築工事に伴う課題をひとつ一つクリアしながら着実に進めていこうとしています。

社会福祉法人二葉保育園

常務理事 武藤 素明 (むとう そめい)

みなさんへのお願い

改築には莫大な資金が必要とされています。児童養護施設は国や東京都、保育園は新宿区より施設整備補助金を受けて改築をいたしますが、当然自己資金も必要です。10 年前に二葉乳児院を改築するときには資金集めについて「二葉支援の会」(後援会)を立ち上げて、大正大学名誉教授の吉澤英子先生に支援の会会長になっていただき約 4000 万円もの資金を集めた実績があります。その後「二葉支援の会」は山田美和子事務局長と愛知英美子さんのコンビで継続的に機関紙を発行していただき、二葉の動きを会員の皆様に伝えていただいております。

ここで、法人としての大きな動きにともない、「二葉支援の会」を新たに再編成し、新しいメンバーも募って物心両面にわたって二葉を支えていただきたいと切に願っています。

食
べる

みんなで育てて食べよう

二葉南元保育園 保育士 和田 香里

たんぼぼ組（2才児クラス）では食育の一貫として、プランターでオクラ、じゃがいも、ゴーヤを栽培しました。7月に入り自分たちで育てたじゃがいもを収穫しました。収穫まで、子どもたちが水をやりや雑草抜きなどをしながら土に埋まっているじゃがいもを大事に育てました。

収穫の際、「がじゃいも（じゃかいも）はどこにあるの？」など子どもらしい発言が多々あり、ワクワクしながらプランターを

覗き込む担任と子どもたち。実際、葉をひっぱりじゃがいもが土の中から出てくると、驚きのあまり目が点になる子や、大喜びする子がいました。

その日のうちに、給食の先生がふかし芋にしてくださり、みんなで食べました。普段、お芋類が苦手な子が「これ！おいしいね」と言っている姿を見て、子どもたちが自分たちで水をやり、大切に育てたことで食に対する興味がわき、「自分たちで育てた」という意識から美味しく食べられる事に繋がったのだと思います。

これからも野菜の栽培を行って、子どもたちに作る楽しさや大変さを伝えていきたいと思います。



出
会
う

子どもたちとその家族に出会うなかで

二葉学園 園長 小倉 要

私はこれまで、二葉学園で幾人もの子どもたちとその家族、地域の人たちとの「出会い」を経験してまいりました。

現在、二葉学園に入所する多くの子どもたちは、虐待を受けた経験を持っています。そのなかでの子どもたちとの出会いは、ここに辿り着くまでに、本当によくいのちを永らえてきてくれたと、感謝し、尊敬し、そしてそのいのちに謙虚にならざるを得ま

せん。「よくこれまでがんばった」と思い、そして、奇麗ごと聞こえるかもしれませんが、「この出会いを大切にしたい」と伝ええます。

先日、退園してから5年ほど音信が絶えていた子ども（もうすでに大人ですが・・・）から連絡がありました。連絡が途絶えていたのと今回連絡してきたのには理由があったのですが、そこは聞かずに「よく連絡してきてくれたね。ありがとう」と伝えました。この5年のあいだ、様々なことがあつ

たことでしょう。学園での出会いやかかわりを大切にしてくれたことを嬉しく思いました。ここでの「出会い」は、単純に人と人との出会いを意味するものではありません。時間・空間・人、現在・過去・未来にわたった、関係性を含んだまさにその人、一人ひとりのかけがえのない人生との出会いなのです。その人を取り巻くすべてのかかわりの「出会い」なのです。私たちはこの邂逅（かいこう）を必然と捉えて、かかわりを継続していきたいと思うのです。

表
す

ダンスで自分を表現したよ

二葉むさしが丘学園 児童指導員 阿比留 美知子

2011年4月から2012年2月まで月1回ダンスパフォーマンス・アーティストの新井さんが、二葉むさしが丘学園に来てくれました。小学3年生から中学3年生の男子5人で新井さんと「くつつきダンス」や「ビニールドーム」や「音に合わせて足踏みダンス」など鍋、鈴、フライパンのような身近な物を工夫して色々な音を出す事を体験しました。自分の工夫したものをその場で出し合い、皆でそれを取り入れて更に進化させていきました。

新井さんはその都度「それいいね」とか「なるほど、やってみよう」と声を掛け実

際してみると前よりもっといいものになるという体験を通して子どもたちは自信をつけて行きました。学園での毎日の生活の中では出来ない「相手の動きに集中する事」や「自分以外の人の動きに自分を合わせる」ことを、ダンスパフォーマンスをする中で子どもたちは知らずの内に学んでいきました。

2月には新井さんから子ども達へ「学園の職員さんに1年間してきたものを発表しようと思うが、協力してくれる？」と提案すると子どもたちは「仕方ないな。新井さんが頼むのなら」と全員快諾し、30人ほどの職員、先生の前で素晴らしいダンスパフォ

ーマンスを披露してくれました。

1年間で新井さんへの信頼も強くなり「また、一緒にやりたい」という子どもの強い思いもあり、今年も新井さんとダンスパフォーマンスをしています。きっと去年以上に良い自分表現が出来るのではないかと期待している所です。



二葉

踊る

こどもたちは、音楽が大好き

二葉乳児院 保育士 中川 真紀

乳児院の子どもたちは音楽やダンスが大好きです。毎日、大人が歌う声や子ども番組の音楽に合わせてからだを揺らしたり、歌ったり、踊ったりしています。

毎年10月に行う「どんぐり会（ミニ運動会）」では、毎年みんなで踊るダンス曲を1曲選びます。それもあって、秋ごろになると子どもたちのダンス熱はいっそう盛

り上がり、お部屋で遊んでいる時も「あのDVDかけて」との繰り返しのリクエストが。「飽きないねえ」と言いながら大人も繰り返し一緒に視ているので、本番にはみんなばかりおどれるようになっていたりします。今年とはどんなダンスが流行するのか、今からとても楽しみです。

手遊び歌もみんな大好きで、食事の前や夜寝る前など、ちょっとした時間楽しんでい

ます。私の担当している男の子は先日1歳になったばかりですが、大きい子がしているのを見様見真似でもう何種類も手遊びを覚えました。とても上手に披露してくれます。

子ども達の活き活きと躍る姿、手遊びしているかわいい姿をみると、私もたくさん覚えて歌って踊って一緒に楽しみたいなあ、と思っています。

触れる

自然に触れる

二葉くすのき保育園 園長 八木澤 真理子

ヒマワリ・アメジストセージ・ブルーサルビア・ルドベキア・ほうきぐさ……。保育園の庭は盛夏の中でも花がいっぱい。夏の野菜もきゅうり・とまと・なす・とうもろこし・みょうが・しそと毎日いっぱい収穫。庭に目をやるだけで気持ちがほっ！とします。

この5年ほど「ローズマリーの会」（月に1、2回園庭の世話をしてくださっている園芸ボランティア四人組）の方々に来てくださり、子どもたちとそして職員もいっしょに、花壇や野菜畑のお世話をしてくださっています。

子どもたちにとって、土や花や虫などの生きものたちが、身近にあることの大切さを感じます。子どもたちはローズマリーの方々に教えてもらいながら、植物の苗を植えたり、花や葉をままごとのご馳走にしたり、「春は黄色だね」と季節を感じたり、野菜ができるのを楽しみに、水遣りをしたり、実が大きくなって赤くなるまで毎日のように見守ったり。実った野菜をその場で食べたり、ゆでたり塩もみして食べたり。一年中、子どもたちは自然から豊かなものをたくさんもらっています。

くすのき保育園では、今年度「庭の改造計画」に取り組んでいます。庭全体をよ

り一層、季節が感じられ、子どもが新しい発見ができる、そんな庭造りに向けて、職員でアイデアを集めています。この計画には保護者の方々も巻き込みたいと考えています。



動く

現場をしずかにささえるために

法人本部 事務局 百瀬 圭吾

この春から法人本部に着任し、理事長や常務理事をはじめ各施設長の指導をいただきながら、社会福祉法人二葉保育園全体にかかわる仕事をしています。あえて、自分の仕事を法人事務と限定的にとらえず、いろいろな課題をクリアしていく仕事とらえています。

年度はじめは前年度決算や事業報告、法人運営をつかさどる役員会の開催等に追われる日々でした。見えにくいけれども必要な

業務がたえ間なく続きました。また、二葉保育園ではそれぞれの施設における課題を法人全体でも解決していくために6分野にわかれて委員会活動を行っています。この委員会の開催も法人本部の仕事のひとつです。

今年からこうした通常業務に加え、三つの施設の改築を控えて5000万円もの寄付金を集めるプロジェクトをはじめました。二葉支援の会の活動や「二葉とこども」の増刊、チャリティイベントの企画などを

進めています。動けば動くほどやる事が生まれてきてしまっていますが、それが張り合いにもなっています。

赤ちゃんから高校生までが安全に安心して生活し、ゆったり育つことを支えていく現場をしずかに支えること、それが法人本部の使命だと思っています。現場が求める時すぐに動き、変えるべきところは変えていくという想いをもって前進していきたいです。

先輩に聞きました！



中山正雄先生：
(白梅学園短期大学教授)

1973年4月二葉学園に指導員として就職、1981年より4年間「施設分園型夫婦制グループホーム」を実践、1998年4月より現職。

Q 二葉や児童養護施設で仕事をしようと思ったきっかけは何ですか？

A 堂々と言えるような話ではないですが、へき地の教員を目指していたが教員免許に必要な科目を一つ落として、就職も決めずにいたところ、実習先でありその後も出入りしていた二葉学園から「1年で良いから来ないか」と誘われて、村岡先生を尊敬していたので「1年限りと言う約束」でお世話になることにしました。

Q 最も印象に残っていることは？

A 沢山あります。前質問で答えたとおり、長く務めるつもりはありませんでした。就職したとたんに「この子どもたちの現実を見て、君はそれでも1年で辞めるのか」と

先輩職員に詰め寄られ、3年間は働くことにしました。その3年目の夏に、卒園した花沢健二君(25歳でがんのため死去)が、顔を出して「2年たったらやめている先生がいる。どうせ中山もここは腰掛だろう」と言われたこと。

これは堪えました。「なら。一生やってやる」と思ったのです。

グループホームは、実子が5歳と3歳で預かった子どもは10歳～17歳の6人でした。胃潰瘍などになり厳しかったが、実子でない子どもを愛することの大切さを教わりました。その後の本園での勤務では、暴力的なH君とのかかわりが思い出されます。夏休みのプログラムで、中

三である彼の参加すべきプログラムは他児との関係で難しいと判断。釣り好きなH君と5泊6日の二人旅で山中湖や浜名湖に釣りに行った時に、彼との様々な心理戦の中で彼の本当の優しさを見出した時、「伝わる」と言うことを実感しました。

彼からも大切なことを教わりました。

Q 現役職員へのメッセージをお願いします

A 村岡末広先生に教わったことですが、「子どもは総論信頼、各論不信頼」「きつと伝わると信じて関われば、必ず伝わる」「自分がここにいる意味のある仕事を自分で見つけなさい」自分らしい仕事を作り出して、元気にあきらめずに取り組んでほしいですね。



社会福祉法人二葉保育園では、施設の改築や子どもたちの養育、法人運営のサポートをするために「二葉支援の会」という後援会を運営し、ご支援下さる方から資金をお寄せ頂いております。

同会に入会をご希望の方は、年会費5,000円をお振込の上、法人本部までご連絡下さい。

また、ご寄付をいただけることも大歓迎です。ご理解とご支援を心よりお待ちしております。

※ 当法人への会費、寄付は社会福祉事業への寄付として寄付金控除の対象となり、確定申告の際に減税措置を受けられます。

郵便振替 ▶ 口座番号：00120-2-30321 口座名義：社会福祉法人二葉保育園

銀行振込 ▶ 三菱東京UFJ銀行 支店名：四谷支店 口座番号：普通 0506208 口座名義：社会福祉法人二葉保育園

クレジットカード ▶ 社会福祉法人二葉保育園ホームページよりお手続き頂けるように準備を進めております。

社会福祉法人 二葉保育園 概要

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

TEL: 03-3341-1205 / FAX: 03-5368-1969

設立：1900年(明治33年)

理事長：遠藤久江

常務理事：武藤素明

理事：河津英彦、網野武博、押切重洋、福田敏朗

監事：園武友、乾川日出夫

二葉学園

統括園長 武藤素明 園長 小倉要

児童定員 52名 職員 51名

住所 本園：

〒182-0035 東京都調布市上石原2-17-7

TEL: 042-482-2578 / FAX: 042-480-5200

二葉くすのき保育園

園長 八木澤真理子

児童定員 100名 職員 35名

住所：〒182-0022 東京都調布市国領町3-8-15
都営くすのきアパート1号

TEL: 042-487-8309 / FAX: 042-487-8309

二葉乳児院

院長 都留和光

児童定員 40名 職員 51名

住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

TEL: 03-3359-4578 / FAX: 03-3359-4596

二葉南元保育園

園長 工藤有子

児童定員 61名 職員 25名

住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

TEL: 03-3351-3819 / FAX: 03-3351-3819

二葉むさしが丘学園

統括園長 武藤素明 園長 黒田邦夫

児童定員 66名 (グループホーム6名含)

職員 45名

住所 本園：

〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1

TEL: 042-344-9911 / FAX: 042-345-7836